



トリノオリンピック 代表選手に内定

バイアスロンの泉めぐみさん(22歳・比内・森合)



(写真提供：陸上自衛隊冬季戦技教育隊広報班)

今年の2月10日から26日まで開催される、トリノ冬季オリンピックのバイアスロンの代表選手に泉めぐみさんが内定しました。バイアスロン日本代表は5人選出され、大会には4人が出場します。

泉さんは、比内地域森合町内の出身。小学3年生から距離スキーを始めました。桂高校時代はスキー部に所属、距離競技で頭角を現しました。卒業後は、陸上自衛隊冬季戦技教育隊に入隊し、バイアスロン競技へと転向。得意の射撃とこれまでの距離競技での経験を生かし、好成績を収めました。

泉さんは、「信じられない気持ち」と喜びを笑顔で小畑市長に報告。「オリンピック出場は夢だった。行っただけで終わらせたくない。レースに出て走りたい」と、出場への意欲を見せました。

1月中旬まで国内で調整したあと、フランス合宿を経て、2月10日のトリノオリンピック開会式に臨みます。

泉さんの活躍を祈ります。



(写真提供：陸上自衛隊冬季戦技教育隊広報班)

トリノパラリンピック代表選手に

佐々木如美さん(32歳、田代町1区)



前回(平成14年)、ソルトレークシティのパラリンピックのアルペンスキーに出場した、佐々木さんが、トリノパラリンピックのアルペンスキー代表選手にも選ばれました。

パラリンピックは、障害者のオリンピック大会で、オリンピック終了後に開催されます。佐々木選手の活躍を期待します。

曲げ物講座を開催

平成9年に同社を工場長として退職し、

なかったのですが、需要があったことから、不慣れな曲げわっぱの製作に取り組みました。業者から製作の方法を聞き、職人の仕事ぶりを見て、次第に技術を身に付けました。また、曲げわっぱを多くの人に使ってもらいたいとの気持ちから、「正確に曲げる機械」や「曲げてから不要な部分を削る」機械など、曲げ物製作の機械を考案し、効率良く作業が出来るようにしました。

佐々木曲物工房を設立しました。以来、大館地域職業訓練センターや、少年自然の家、市内の小学校などで、大人から子供までを対象に曲げ物講座を開催しています。特に、小学校での曲げわっぱ教室は、これまでに約1,300人の子供たちが曲げわっぱ作りに挑戦しました。「実際に職人を目指したいと思うことは無いのでしようが、曲げわっぱに親近感を感じて、いずれは愛用してくれるよう」願って、授業をしているのだそうです。子供たちは、佐々木さんの話に目を輝かせ、手順を教わった後、手元を見つめ製作に没頭。

常にチャレンジ精神を

佐々木さんは、作業中にも、色々と考

苦勞して、完成させたときは、みんな大喜びです。「杉の美しさが、そのまま曲げわっぱの美しさであり、それが曲げわっぱの魅力」と話す佐々木さん。今回の受賞には、「周りの皆さんのおかげで、名誉ある賞を受賞出来て、光栄ですし、応援や、推薦していただいた皆さんの気持ちが胸に痛いほど染みわたる。本当にありがたいこと」と語ってくれました。

「もったいないから飾っておくのではなく、実際に使ってほしい」と佐々木さん。そのチャレンジ精神は、これからも尽きることは無いでしょう。

えているそうです。何か新しいことは出来ないか、何か違う物は出来ないかと、意欲的です。そうして作った物が、秋田杉と樺や広葉樹との融合作品です。曲げわっぱの縁やふたなどに、色の濃い、樺細工をほどこした物は、デザインも好評で、従来品よりも遠慮なく使える曲げわっぱとなっています。